

今年残り3か月
それぞれの秋を
楽しもう!

府中市生涯学習センター

生涯学習 だより

第85号 <秋冬号> 2023年10月1日 発行

4面の追加記事を含む“WEB版”公開中!⇒



企画・編集：府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」

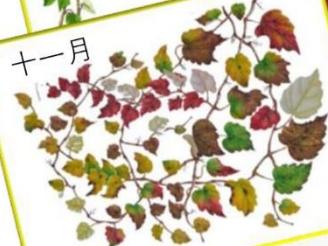
共同発行：府中市文化スポーツ部文化生涯学習課

府中市生涯学習センター（ミズノ・KPBグループ）

十月



十一月



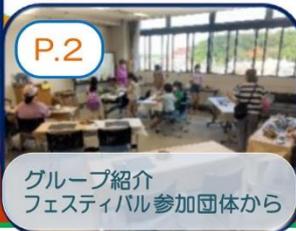
十二月



第30回
P.1 市生涯学習
フェスティバル
2023.10.8-10.9

日頃の成果を発表
生涯学習フェスティバル

P.2



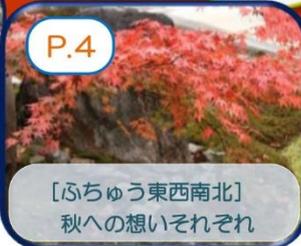
グループ紹介
フェスティバル参加団体から

P.3



インタビュー
歩こう協会 武田さん

P.4



[ふちゅう東西南北]
秋への想いそれぞれ

秋～冬の花

10月：ジュズサンゴ

11月：ツタ

12月：ポインセチア

<作品提供>

府中植物画の会

第30回 実りの秋！日ごろの成果を発表 府中市生涯学習フェスティバル

10月8日(日)・9日(月・祝)
於：府中市生涯学習センター

☆今年リアルが面白い！

☆1階アトリウムで市民発表会!!



市民参加で毎回好評！

- ・市民作品展・市民発表会
- ・ワークショップ など

楽しいイベント満載！

- ・子どもサイエンス
- ・鉄道模型展示 など

☆キッチンカーも来るよ!!

第30回 特別記念講座

「伊能忠敬から見る」
～生涯学び続けるための

3箇条～



講師：伊藤賀一氏・西岡老誠氏

10月9日14時から 2階講堂
定員290名 ★入場無料

フェスティバルには是非ご来場を！

秋は「府中市生涯学習フェスティバル」の季節です。第30回を迎える今年は、市民文化の日(10月8日〔日〕)スポーツの日(10月9日〔月・祝〕)の両日にわたって行われます。

コロナ関連の制限がなくなった今回、例年のように1階アトリウムで賑やかに催される市民発表会を始め、数々のワークショップが展開されます。また、フェスティバルを盛り上げるため、全国合唱コンクールで銀賞に輝いた都立府中西高等学校の合唱部が来演。素晴らしいハーモニーを披露してもらいます。

さらに今回、講演がいつも爆笑につつまれる人気講師伊藤氏と、ドラゴン桜の監修者・西岡氏による特別記念講座を開きます。

今年は玄関前にキッチンカーも来て祭り気分を盛り上げます。是非ご来場ください。

表紙のつぶやき

<秋の夜長に思う> 最近 DVD を図書館から借りて見た。50年以上前に放映された『スタートレック』。若い頃は 何気なく見ていたが、絶体絶命のピンチを主人公 コーク 船長は、腹心のMr. スポックと見事に脱出する。楽しくハラハラドキドキしながら見せてもらった。私の人生にも避けられないピンチはやってくるだろう。起きることは変えられないが、落ち込まないように対処する術が私のような人間には必要だ。自分

の考え方の癖を知って考え、行動できたら、ピンチを脱出し人生も少し楽しくなるかな…

AI の時代が到来 — だからこそ人間にしかできない発想の転換や飛躍、創造性が必要だ。それらを駆使していけたらさらに楽しい人生になるのだろう。難しいがワクワクすること間違いなし(笑) 秋の夜長は、色々なものを見、感じ、考え、一つ一つ自分の身になるようにしていきたい。「さあやるぞ！」(山田詩子)



生涯学習フェスティバル参加グループから紹介

今回は生涯学習フェスティバルでワークショップを行うグループから紹介します。

まずは「府中・銅版画学習グループ連絡会」。第1回目からずっとフェスティバルにかかわってきました。次に「NPO 法人アーティスト・コレクティブ・フチュウ」。昨年「ラッコルタ」というイベントに参加しています。

府中・銅版画学習グループ連絡会

銅版画学習グループ連絡会は、4つの学習団体(右記)で構成される統括団体です。

約30年前の府中市生涯学習センター開設時に開講した「銅版画入門講座」の修了生が、其々に学習団体を結成し、2001年、合同グループ作品展「銅楽展」の共同開催を実現。以降、毎年イベント活動を共同で運営しています。

年間のイベント活動は—

- 1) 合同グループ作品展「府中*銅楽展」隔年開催
- 2) 夏季・親子銅版画ワークショップ「銅版画で学ぼう」の運営

<ワークショップの様子>



☆グループへの連絡は川崎 (042-366-3097) まで

各学習団体の名前と活動日程

- *府中エッチングの会 隔週日曜日の午後の部
- *銅版画サークル“カンナ” 木曜金曜の午後の部
- *メディア版画倶楽部 隔週 土曜日の午後の部
- *EX-PRESS STUDIO 隔週 木曜日の午前の部

- 3) 生涯学習フェスティバルワークショップ「初めての銅版画にトライ」
- 4) 秋季府中市市民芸文祭「版画展」に出品
- 5) 11月にオープンアトリエ「銅版画への誘い」(2日間コース)開催

連絡会のメンバーは30代から80代までいます。各団体は、独自で表現技法を工夫・研鑽しつつ、団体間の学習交流もあります。詳しくはHPへ↑



今回の生涯学習フェスティバルでは、10月8日(日)にワークショップを開催します。

また、10月18日(水)~22日(日)には、府中市美術館で版画展を開催します。是非ご来場ください。



NPO 法人 アーティスト・コレクティブ・フチュウ

NPO 法人アーティスト・コレクティブ・フチュウ(ACF)は、府中市を中心とした、アートに関わる人々やアートファンのネットワークで、「誰もが自由に表現できるまち」を目指して様々な活動に取り組んでいます。

その中の一つ、「ラッコルタ-創造素材ラボ-」は地元企業から不要な部材を提供していただき、表現のための創造素材として新たに活かす仕組みづくりです。アーティスト主導のワークショップを通じて、子供や大人が素材から発想した表現活動に取り組めます。身近にあるモノを違う視点から捉える機会を重視しています。このラーニングプロジェクトは令和3-4年度市民提案型協働事業に採

択され、府中市文化生涯学習課と協働しました。昨年度も生涯学習センターで生涯学習フェスティバル、市民文化の日などでワークショップを開催しました。



また昨年11月にはバルトホールで開催された府中市・ウィーン市ヘルナルス区友好協定締結30周年の記念展の企画と展示も担当しました。

その他、かわら版「かみひこうき」の発行、府中のアーティストやアート情報を紹介するラジオ番組 Artist Collective Fuchu presents「おとのふね」の制作にも取り組んでいます。毎月第1火曜日 22時 府中のコミュニティFM局(ラジオフチューズ 87.4MHz)より放送中。ACFに興味のある方は、ぜひホームページをご覧ください。⇒



今回の生涯学習フェスティバルでは、「ラッコルタ」というワークショップを、2階講堂前のスペースで10月9日(日・祝)に開きます。

府中市内の企業からいただいた素材を使って自由に作品を作るワークショップです。事前予約はいりませんので気軽に参加してください。



歩くことで健康づくり、仲間づくり、まちづくりを目指す

府中市歩こう協会会長 武田 秀夫さん（西府町在住）



最近、人生 100 年時代、どう健康を保ちながら楽しく充実した高齢期を送るかが大きな課題となっています。よく、運動、栄養、社会とのかかわりが 3 要素といわれますが、そんな実践活動の場にぴったりなのが歩こう会です。長年、その活動をお世話されてきた、会長の武田さんに、歩く楽しみ、よろこび、そして苦勞、また今後の発展などについて、お話をうかがいました。

◇府中市歩こう協会の概要について教えてください

現在、会ができて 45 年になります。会は歩くことによる自然への親しみ、健康増進、仲間づくり、仲間との親睦、笑顔の街づくりを目的にして、1978 年（昭和 53 年）に「多摩川歩こう会」として発足しました。

歩くことが好きな方々が中心となって始まり、一時は 600 名以上の会員がいましたが、現在は女性が 69 名、男性が 42 名の 111 名です。ともかく健康づくりと仲間づくりを第一の目標として頑張っています。

1990 年（平成 2 年）には、社会体育優良団体として文部大臣表彰を受けました。

◇どんな活動をされていますか？

月 2 回（7 月 8 月は 1 回）年間 22 回の“歩きの定例会”を行います。定例会では約 8 km のコースを歩いています。昔は 10km でしたが高齢者が多くなり短縮しました。



＜東村山七福神＞

また、毎年 3 回の“日帰りバス旅行”もあります。今年は 5 月末の「水郷あやめ祭り」と香取神宮、8 月の「富士五合目散策と忍野八海」を行いました。バス旅行は人気があり、みなさん楽しみにしていて、いつも約 70 名の参加者があります。

年間の計画は、毎年 12 月に決めるようにしています。定例会については、府中から 1 時間半程度で行けるコースを会員や役員が提案します。そして提案者が実踏してトイレや休憩所の有無などを確認するなど、コースの適否を検討します。さらに役員が実踏して、コースを選定し、年間スケジュールを決めていくのです。

定例会参加通算 300 回の方もおられますので、コースの設定もやりがいがあります。

◇定例会には会員以外の方も参加できますか？

あまり参加者は多くありませんが、自由に参加できるように呼び掛けています。

今年行った御嶽溪谷散策には、20 代の女性が参加してくれました。高齢者中心の会なので、話が合うかなと心配しましたが、自然に触れ、歩く共通の楽しみを語り合い、和やかに楽しめたようです。こうした仲間が増えてくれると嬉しいのですが。

◇武田さんは会に参加されて何年位になりますか？

私は国立から府中へ移ってきて約 20 年、来た当初は知り合いもいなかったのですが、定年を機会にこの歩こう会を通じて仲間づくりができればと思い入りました。それからもう 18 年になりますね。参加した当時は約 300 名の会員がいてにぎやかでした。今は高齢者が多くなり、男性は 70 歳後半の方が多く、女性

は若干若い年代です。最高齢 90 歳の先輩もおられますが、みなさんお元気です。

◇武田さんの歩こう会での歩く楽しみ、歩く魅力はどんな点ですか？

そうですね、歩く楽しみといえば、自然に触れ、季節の花を見たりすることや、会社を離れてからの地域の仲間との交流ですかね。会社勤めを辞めると、なかなか地域の知り合いがいなかったものから、この会がいい付き合いの機会となりました。

◇会のお世話をされてご苦勞されることは？

歩くコースを作るのが一番苦勞するところです。コースの途中のトイレの場所とか休憩所の位置などに気を配っています。これが案外大変ですね。

それと、100 人近くの会員が集団で歩くものから、地域の方々にいろいろご迷惑をかけているのではないかと心配になることがあります。狭い生活道路を話しながら歩いたり、信号でなかなか揃わなかったりと。一列縦隊で整然とはいきませんので…

また、高齢者が多いので、ちょっとしたつまづきで転倒事故があったりします。夏は熱中症なんかも心配です。水分の補給とか、休憩のタイミングなどには細かく神経を使っています。役員は何名かいるのですが、なかなか大変です。でも苦勞とはあまり思いせんね。

◇新しい会員を増やしていくために、歩く魅力をもどのようにアピールされますか？

老若男女を問わず、みなさんには、自然の中を季節の香りを感じながら“仲間と一緒に”歩くのが楽しい、健康増進にいいということを知って欲しいと思います。

高齢者は団体行動はいやだとか、マイペースで歩きたいとかで会を敬遠される方もおられます。でも、ぜひ一度、参加してみてください。“仲間と一緒に”は本当にいいものですよ。

最近参加されたり入会された方は、会員の紹介とか知り合いの紹介が多いです。文化センターなどにもチラシを置き PR していますがなかなか市民の目に届かなかったのだと思います。これから頑張って広報・宣伝を進めていきますのでよろしくお願ひします。



＜富士見高原リゾート＞

特に高齢者は歩くことが大事です。ぜひ歩きの定例会に参加して歩いて欲しいと思います。

（取材：奥野 竹村 井口 西谷／ 記：奥野英城）

秋をあらわす言葉は沢山ありますね。読書の秋、スポーツの秋、行楽の秋などなど。そこで、編集メンバーが「秋といえば」というテーマで考えてみました。



ダイヤモンド富士 + 二重富士

★実りの秋★

四谷の梨

秋といえば食いしん坊の私は実りの秋でしょうか？住んでいる四谷・日新地域には、かつて梨農園がたくさんありました。崖線下は一面梨園が広がっていたのですが、今では数軒になってしまいました。農園の柵を作るために竹藪もたくさんありました。その竹を使ってお正月にはどんど焼きもやっていました。



梨の種類も豊富で、幸水、豊水、長十郎、かおり、いなぎ、新高、新興などなど、初夏から晩秋まで楽しめます。私はいなぎという梨が好きです。これまで長年にわたり楽しませていただいた梨が、だんだん消えてしまうのは寂しい限りです。

世代が変わったり、ご苦労も沢山あるとは思いますが、梨の栽培は残して行ってほしいです。(井口文江)

晩秋とダイヤモンド富士



秋といえば実りの秋、それも晩秋に鳥のために一つだけ実が残された柿などの木が思い浮かぶ。取り尽くすこと無く、来たる厳しい冬に向かう命へのおすそわけの優しい気持ちが読み取れて何故か心温まる。また府中では11月の下旬、運よく晴れた夕方にはダイヤモンド富士が見られる(上の写真)。単に富士との位置関係と天気によるものだが、1年のご褒美がもらえたようで嬉しい気持ちになる。なお地球温暖化で秋は短くなっていることを考えると、秋という季節は貴重に思えてくる。“光陰、矢の如し”が“・・・秋の如し”とならないように温暖化に歯止めをかけるにはどうする？等と考えつつ、深まる秋に月を肴に酒を楽しむ——月見酒も悪くない。(中濱敬文)

★秋に想うこと★

秋を感じて

虫の声を小脇に抱えた涼風と、夏の終わりの気だるさとがクロスオーバーする。秋の足音が次第に大きくなる。これからは、日増しに木々の葉が色付いてくるだろう。日に照らされて、鮮やかな赤や黄色が自己主張を始めるだろう。どの葉を見ても、虫に食われている葉でさえも自然が創り上げた素晴らしい作品だ。思いっきり愛でてあげよう。だって、そのあとには枯葉、落ち葉になる運命が待っているのだもの。最後の輝きを放つ美しい姿を心にとどめよう。(中井博子)

萩にひかれて

秋といえば何時も思い出すのが、令制国のひとつ大和の村の小さなお寺で見た、控えめに奥ゆかしく咲いていた萩の花です。



萩の花は豆科特有の蝶形花です。直径1~1.5cmほどの紫色の小さな花を枝いっぱいに咲かせます。何を主張するでもなくただそこに在り悟りを解く仏の化身のように存在していました。

「墨染めの 我が初姿 萩の前」これは、私が人生を振り返った時に詠んだ句です。(柴田洋子)

芋煮会

私の秋を感じるものといえば、何と言っても「芋煮会」ですね。獲れたての野菜(大根、にんじん)と里芋、あとはこんにやくに牛肉を入れて、大鍋を囲みみんなでこんな話をするとおもいます。～やっとな涼しくなったよね～とか、～またどこか行きたいね、秩父、行田(さきたま古墳公園・忍城)なんかどう～などなど。

本来芋煮は河原がいいとされていますが、運ぶことが大変なので屋内でもいいのかと。私は家で秋を感じたときすぐやります、日本酒とともに。(渡邊繁雄)

★秋の風情★

秋は紅葉(もみじ)

秋といえば紅葉だ。京都出身の私は、京都の様々な神社仏閣の庭園を思い出す。

しばらくご無沙汰をしているので、秋晴れの日ぜひ訪ねてみたいのが建仁寺の紅葉。建仁寺は臨済宗建仁寺派の大本山であり、京都最古の禅寺でもある。さらに俵屋宗達の「風神雷神図」などの文化財を豊富に伝えている。また、豊臣秀吉を祀る高台寺や、八坂の塔のある法観寺は建仁寺の末寺である。

建仁寺の場所は、忠臣蔵でおなじみの大石内蔵助が利用していた花街祇園の一角茶屋から、花見小路の石畳を歩いて2分ほどだ。祇園の先にあるのに、人混みに煩わされることなく、庭園を静かに鑑賞できる素敵な場所だ。(鈴木禎治)



私の秋<編集後記に変えて>

9月1日に私の秋が始まる。これは子供の頃からずっと同じで、いくら厳しい残暑が続いても関係なく、一気に季節が変わってしまう。夏には納涼祭り、盆踊り、花火大会等々で世間は概ね浮かれた気分が高まるが、それを良い口実にして、些かハメを外した感もあった自分がこの日を迎えると途端に「少し改めなければ」と思ったりする。プールから歓声が消え、子供達は学校生活に戻る。彼らに帰宅時間を知らせるドボルザークの「家路」のメロデーは30分早まって、17時の放送になる。この時間差が私に「いよいよ秋が来たな」と感じさせる。これから日暮れの時間がどんどん早くなって「大嫌いな寒い冬が来るのだなあ」と覚悟する日でもある。(竹村 稔)

